

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300768		
法人名	社会福祉法人 青藍会		
事業所名	ハートホーム南山口グループホーム		
所在地	山口市深溝803-1		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町受理日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の利用者同士・職員との触れ合いを通じ、利用者本位のケアの実現に努めています。日々の感じ方やお気持ち、ご様子の変化に敏感に対応し、毎日の中で笑顔になれる機会をつくれるよう職員一同工夫しています。毎日の交流やレクリエーション、リハビリテーション等の活動を行っています。裏庭では野菜作りをしており、利用者様と一緒に収穫した野菜から、献立を考え、調理・会食と一連の流れと展開も工夫しています。また、外出やお散歩の機会を設け、買い物等にもできるだけ出かけられるようにしています。長く入居いただき第二の家になっておられ、看取りにも力をいれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時のアセスメント(事業所独自の基礎情報シート、ADL・意向シート)を活用され、利用者一人ひとりが今までの生活が継続できるように努めておられます。職員間で話し合われて支援経過記録の様式を工夫され、日々の関わりの中での利用者の表情や言葉などを支援経過記録に記録されている他、「気づきノート」を活用して職員間で共有され、利用者の思いや意向の把握に努めておられます。本人とのつながりを家族とともに深めていけるように家族交流会を開催され、行事や外出を通して本人を支えるための協力関係づくりをされています。管理者は、業務改善ミーティングや申し送り時、年2回の個別面談等で職員の意見や提案を聞く機会を設けておられ、支援経過記録様式の変更や看取り時の勤務体制の変更など、職員の意見や提案を運営に反映させておられ、サービスの向上に活かしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に詰め所に掲示された事業所理念に基づき毎日業務にあたっている。地域の中で、地域の方々の支援を受け、職員はその理念を元に共有し介護にあたっている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり事業所内に掲示している。日々の業務の中で話し合っ確認し、共有して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日天候の良い日には野菜市やホームセンターへも行き、地域の方から声をかけていただけようになった。職員は地域の道普請・川普請や盆踊りや納涼祭にも積極的に参加している。	職員は地域の道普請や河川清掃に参加している。利用者は地域の盆踊りに参加して地域の人と交流している。拠点主催のフェスティバルの事前準備に中学生の協力を得ている他、中学生の合唱部やバンド演奏、フラダンス等の催しがあり、地域の人(250名程度)や子ども達が参加して、利用者と交流している。拠点主催の認知症カフェ(ハートカフェ)を開催し、事業所職員は認知症の理解を得るための寸劇や非常食の紹介をしている。ボランティア(傾聴や畑づくり)の来訪がある。利用者は近くの百円市やスーパーでの買い物時等に出会う地域の人達と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族交流会・運営推進会議・認知症カフェ(ハートカフェ)等に地域の方々にご参加していただき、事業所の取り組みを報告し、知っていただく機会を設けている。また、認知症理解のため、職員が演劇を実施したり、認知症の基礎理解、対応方法、その他介護予防に資する講義などを行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価を実施することにより、事業所全体の業務改善を行っている。また、職員各自、自己目標設定を掲げ、事故研鑽に努めている。	管理者は評価の意義について説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、業務ミーティング時に話し合い、管理者がまとめている。前回の評価結果を受けて目標達成計画を作成し、応急手当や初期対応の訓練などについて改善に取り組むように努めている。	・評価を活かす取り組み

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を実施し、行政・民生委員・家族様に、詳細に事業所の現状を報告している。また、参加者よりご意見を拝聴し、サービスの質の向上に続けている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、活動状況、行事紹介、事故・ヒヤリハット報告、防災訓練の報告、研修報告、外部評価結果等の報告をして、意見交換をしている。意見をサービス向上に活かすように努めているが、運営推進会議を活かした取り組みまでには至っていない。	・会議を活かす取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバー、民生委員の方に協力を仰ぎ、GHでの取り組みを詳細に報告・説明し、ご助言をいただいている。認知症カフェ（はあとカフェ）や施設内行事にも時折ご参加いただき、話のしやすい関係にある。	市担当者とは介護保険の更新時などに出向いて相談をしている他、電話で情報交換や相談をして協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に相談や情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が身体拘束の理解を得るため、研修会や勉強会に参加している。尚、定期的に委員会を開催し、利用者様の身体拘束ゼロを実践している。	外部研修や拠点施設の研修会等で学び、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。職員体制に応じて玄関の施錠を工夫している。外出したい利用者とは一緒に出かけるようにしている。スピーチロックについては管理者やリーダーが指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は高齢者人権擁護の研修会を受講し、定期的に委員会を開催している。また、管理者・職員は利用者様への態度や言語など些細なすれ違いにも目を配り、職員へその都度教育を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者様の事例として3件ありますが、一般職員は研修会や勉強会は特に受講しておりません。今後研修会等を通して勉強していきます。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族様に懇切丁寧に説明し、処遇や利用料の詳細等、不安や疑問に対しても丁寧に対応している。常勤の看護師も配置しており、医療面での説明は他のグループホーム以上のものを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様等の相談・苦情はその都度、ミーティングを開き、話し合い、改善に努めている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議時、2ヶ月に1回の家族交流会、事業所だより送付時、電話等で家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに対する要望は反映している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務改善ミーティングにて、管理者に職員からいろいろな意見を提案し、また管理者からは事業所方針や利用者本位のケアの教育の場としており、運営しやすい環境づくりをしている。	管理者は、月1回の業務改善ミーティング時や申し送り時、年2回の個人面談等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で聞いている。経過記録の様式の変更、看取り時の勤務体制の変更など、反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部長・拠点長は各事業所長を通じ、各部署の職員個々の努力や実績・勤務状況把握・評価している。定期的に面談を実施したり、職員へ個別に声をかける等して、現状確認とモチベーションアップの機会を随時持つよう心がけている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や部署内研修にて各々が教える立場、教えられる立場を経験し、仕事しやすい環境作りに努めている。個々の経験値や力量に応じて、教育・指導を行なうとともに、職場内での役割を与え、外部研修の機会を設ける等工夫している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は身体拘束などに参加している。受講後はレポートを提出して職員間で共有するようにしている。月2回の拠点研修では事業所の役割り、認知症のBPSDなどを学んでいる。月1回の内部研修では看取り、転倒、骨折、麻痺、嘔吐などを実施している。新人研修は3ヶ月間、業務日報の記録に基づいて日常業務の中で管理者やリーダーの指導を受け、介護知識や技術を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	拠点ミーティングや研修等で交流する機会が増え、互いの意見交換や改善策、サービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームを見学に来られた際に、現在の状況をお話しさせていただくとともに、契約時には入居前の情報を確認し、ご本人様の話を聞く機会をつくっている(私の基本情報シートなどを活用し、記入してもらっている)		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも早く環境に慣れ、馴染みの関係が築いていただけるよう、入居時に今までの状況をお聞きし安心した生活が営めるよう努めている(基礎情報・私の基本情報シート)。また、職員が関わりを多く図ったり、利用者様同士のコミュニケーションの間に入ったり等の工夫に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの中でアセスメントをし、ご本人・ご家族の意向、主治医及び医療機関からの情報と連携等を把握し、職員皆で共有し、皆が統一したサービスを提供できるよう勤めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で共同作業など、他者との関係性を保つために、ご本人の気持ちを察し、利用者様同士でできること、職員と一緒にできることを日々工夫している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段からサービス利用開始時にも、これから施設に入られてもご家族との関係を持続けていただくことをご家族へは必ず伝えるようにしている。 また、家族交流会を2ヶ月に1回開催し、利用者様の生活や、体調面をご家族様に伝えご家族様にも理解を得るように勤めるとともに、利用者様の状況を随時お伝えし、状況によっては関わりを密にさせていただくよう職員から連絡を取らせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時やその時々、ご本人様や家族様から様々な情報を聞き、サービスにあったケアプランを作成するように努めている。 また、入居後のご本人様のお気持ちや状態に気を配り、随時それに沿った対応を続けている。	家族や親戚の人、孫、ひ孫、近所の人、友人、ディサービスの利用者等の来訪がある他、電話や年賀状などの支援をしている。家族の協力を得ての外食や一時帰宅、墓参り、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様と一緒にできることは一緒にして頂き、他者との関係性(配慮面、観察面)に配慮し、よりよい支援方法になるように工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎月近況報告の手紙を送付している。家族様に気を遣ってプラス面ばかりを強調するのではなく、マイナス面を含めてありのままを報告するようにしている。家族様はありのままの姿を報告して感謝しておられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との普段からの関わりを大切にし、その中で随時思いや意向、ご様子や状態の把握に努めている。また、業務優先の考え方にならないよう管理者から日々職員への声かけと意識付けを行っている。	入居時のアセスメント(事業所独自の基礎情報シート、ADL・意向シートなど)を活用して、利用者一人ひとりが今までの生活を継続できるように努めている他、日々の関わりの中での利用者の様子や言葉などを支援経過記録に記録している他、利用者との会話の中での何気ない言葉からの気づきを「気づきシート」に記録し、職員間で共有して、利用者一人ひとりの小野医や意向の把握に努めている。今年度は支援経過記録の様式を工夫している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は基礎情報書を確認。何気ない普段の会話を大切にし、そこからご本人の好みや意向や人柄や日々の変化を探る工夫を行っている。また、ご家族の面会の機会等を活用し、過去の生活歴やご自宅での過ごし方などを確認するとともに、ご家族との関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り、夕方、リーダーから夜勤者への申し送りの際にその日の様子を報告し、利用者様全員の日々に過ごされ方の確認と共有を実践している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成・更新する際には、職員同士でカンファレンスを行い、意見を出し合い、よりよいケアプランになるよう工夫している。	計画作成担当者や利用者を担当する職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月、6ヶ月毎に見直しをしている。状態の変化や要望に応じて、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを常に各ユニットに置き、プランの内容に沿ったケアの実践に努めている。また、日々の記録もなるべくそれに沿ったものを残すようにし、普段からの職員の意識の共有を図っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりを大切にし、その中からニーズを拾うことを職員皆で意識して取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の散歩、近隣の方との挨拶等を実施している。地域全体の社会資源把握は不十分。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人様・ご家族の希望の元に、かかりつけ医に受診し、職員が付き添い必要な場合は実施し、連携を取って対応している。診察後も、ご様子を観察し、その都度小まめに連絡を取り合い対応している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1度の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時の情報はFAXで医療機関に提供している。受診結果は、家族には電話で連絡している他、職員間で業務日誌や個人記録に記録して共有している。夜間や緊急時は協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内2名の看護職は互いに連携を取り合い、看護業務を円滑に回している。また、職場内の介護職との連携も十分に取れている。また、必要に応じ、医療連携体制を取っている診療所の看護職と連携を取り、主治医への報告および診察へもスムーズに継いでいる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設診療所及び他の専門医療機関との連携をとり、早期に対応できるよう、相談や情報交換を図っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の利用者様が多く、看取りの段階で早期に家族等との話し合いをもち、家族の希望に添いながら看取りの方針を決定している。医療機関と連携を取り、頻回の連絡、相談を行い寄り添う介護を実施している。	契約時に「重度化した場合における対応の指針」や「看取りの指針」に基づいて、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族、主治医や看護師等と話し合い、方針を共有し、看取りや医療機関、他施設への移設などの支援に取り組んでいる。5例の看取り経験もある。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故を防止するという気持ちを全ての職員は持っており、事故防止のための対策を立てて実践している。急変や事故発生時に備えて定期的な訓練は行っていないが実践力は身につけている。	ヒヤリハット、事故報告書にその日の職員間で話し合い対応策を記録し、申し送り時に伝えている他、メールで知らせ共有している。月1回の業務改善ミーティング時に再検討をして、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、緊急時の対応マニュアルを更新している他、内部研修で転倒、誤嚥、骨折、出血、嘔吐などの訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を実施し、特に夜間の出火を想定し、利用者が避難できる方法の対応と情報共有をしている。	設備会社の協力を得て、年2回夜間想定避難訓練、通報、消火訓練を利用者も参加して実施している。地元で開催した災害研修に職員が参加している。拠点主催の認知症カフェ（はあとカフェin南山口）で、市の防災危機管理課職員の協力を得て、災害時の備蓄、非常食の勉強会を開催し、地域の人や事業所職員が参加して学んでいる。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないために全職員が声掛けを工夫し、思いをすくい上げ、今の生活を快適に過ごせるよう努めている。	職員はパーソン・センタード・ケアについて学んでおり、日常の業務の中で話し合い、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者やリーダーが指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を表出された際、可能な限りその希望を実現できるようにしている。また、その際はご本人が自己決定できるよう意思確認を行っている。意思表示の難しい方に対しても、表情やご様子を察して対応している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活パターンを全ての職員が理解するよう努め、ご本人の意向に添った支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容車が月2回来訪し、ご本人の好みに沿って散髪やカラー・パーマ等を行っている。また、普段からの利用者様の整容に配慮し、模様や柄にも配慮した身だしなみを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付け、配膳、下膳が出来る利用者様には職員と一緒に頑張って頂いている。また畑で採れた野菜を使い調理をしたり、利用者様と職員で献立を決め、一緒に調理している。	朝食は、法人からの食材を利用してつくり、昼食と夕食は法人からの配食を利用している。ご飯は三食とも事業所で炊いて、事業所の畑で収穫した野菜を利用して一品つくっている。利用者は、食材の下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。家族交流会では、家族と一緒に食事づくりを楽しんでいる。季節の行事食(雛祭りなど)、おやつづくり(スイートポテト、みつ豆、月見団子など)、事業所で外食に出かけたり、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立を基に毎食の食事摂取量を確認し、記録している。水分摂取については利用者様ごとの好みにあわせ、食事およびおやつ時には確実に確保し、その他必要に応じて水分量の目標値を定め、摂取に心がけ、記録に残している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケア、また利用者様自身で行える方には声掛けすることで口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴えがあったときには排泄介助を行い、利用者様のできる部分は行っていたり、定時排泄は声掛けで誘導し、排泄を促したり、腹部マッサージを行っている。	排泄の記録表を活用して排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様ごとの排便の記録を確認しながら、必要があれば水分補給、運動を行い排便の働きかけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2、3日おきのペースで職員がある程度、入浴実施計画を立てているが、利用者様の体調に応じて、中止している。また、利用者様のご気分を優先し、時間を早めたり、遅くしたりと、ご要望に沿って実施している。	入浴は毎日14時から17時まで可能で、利用者の希望やタイミングに合わせてゆっくりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いをせず、時間の変更や職員の交代、声かけの工夫をしている。体調に応じてシャワー浴や足浴、清拭などの支援をしている。入浴剤を使用して気分転換を図るなど、個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間・入浴時間はその利用者様の生活リズムに合わせるようにしている。また、日中も利用者様が傾眠がちにされていれば、臥床を促し、お休みになられている際は食事の時間も強要せずに、起床のタイミングに合わせてお出ししている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の下で、夜勤者二人が薬を配薬し、服薬確認も合わせてダブルチェックを毎日行っている。また、薬の変更があった際には、その薬の目的・副作用・用法・用量については、看護師が申し送りを行い、ノートにも記載している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なかなか利用者様一人一人個別に、レクレーションや機能訓練を行うことは人間的に難しく、自立できる方を主に、集団でレクレーションや機能訓練を実施している。	洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑づくり(苗植え、水遣り、収穫など)、プランターの花づくり、配膳、下膳、食器洗い、テレビ視聴、歌を歌う、習字、はり絵、リハビリ体操、ラジオ体操、口腔体操、運動会、お茶会、クイズ、輪投げ、魚つり大会、西瓜割り、風船バレーなど活躍できる場面づくりをして、楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	暑い季節と寒い季節は除き、日常的に散歩へ職員と一緒に出かけ、気分転換を図っている。遠出の場合は、ご家族の協力の下、勧んで外出して頂いている。家族交流会を定期的実施し、職員ご家族・利用者様で外出し、コミュニケーションを深めるように努めている。	敷地内や周辺の散歩、百円市やスーパーなどへの買い物、家族交流会でサンパーク、長沢ガーデン、道の駅に出かけている。花見(桜、バラ、コスモス)、外食、家族の協力を得ての外出、一時帰宅、墓参り、法事への出席など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のIADLに応じ、職員付き添いのもとで買い物支援を行っている。金銭管理については、現在の利用者様は全て事業所が取りまとめて行わせていただいている。また、欲しいものに関しても要望を聞き支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご本人のご要望に応じて対応している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし、定期的に整理・整頓を行い、配色や空間等で混乱が起きないように努めている。また、何人かの職員は花を持ち寄り、一年を通じて花瓶に活けており、季節感を取り入れている。	共用空間は広く、中庭から入る陽ざしで明るく、ユニット間は自由に行き来できる。廊下の壁には絵画や利用者の習字の作品、手づくりカレンダー、事業所便りなどを掲示している。部屋の隅に畳スペースがあり、通路付近にはソファや椅子を数多く配置し、利用者が思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にテーブルや椅子を配置し、新聞を読んだりテレビを見たり、個々のライフスタイルに応じたくつろげる空間を提供している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋のしつらえ等は、これまでご自宅で使い慣れた物を持ち込んでいただき、少しでも過ごしやすい空間になるよう、要望を聞いた、相談しながら行っており、利用者様によっては大変個性的なお部屋になられている。	ベッド、整理タンス、椅子、文机、テレビ、衣裳ケース、衣裳掛け、セカンドバックなど使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族写真や花を飾って、本人は居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで安全面に配慮し自己の部屋が分かりやすいよう表札や飾りをつけるなど工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 ハートホーム南山口グループホーム

作成日：平成 28 年 3 月 19 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4 (3)	自己評価・外部評価を活かす取り組みが必要。	外部評価を受け、改善の取り組みを実施。 次年度外部評価までに成果を出す。	目標達成計画を部署で共有し、それに基づき 各課題の改善に取り組む。	～10/31
2	5 (4)	運営推進会議を活かす取り組みが必要。	参加者の拡大、家族からの意見、地域への 発信、地域への開放と交流を見据えて取り 組む。	会議では家族への提案・相談を用意し、投げか ける。 掲示コーナーを設置し、運営推進会議の案内と 結果の掲示。 会議結果はグループホーム便り内にも掲載し 全ご家族へ報告。 はあとカフェを活用し、地域との交流を広げ深 める。	～10/31
3	35 (15)	全職員が実践力を身につけるための応急手当 や初期対応の定期的訓練を継続する。	全職員（常勤）が理解し実践できる。	部署内勉強会での実践。	～10/31
4	36 (16)	災害対策について、はあとカフェ等を通じ地域 の人との機会をつくろうとしているが、協力体制 の構築までに至っていない。	地域との協力体制の構築。	現在の取り組みの継続と、今後の運営推進会 議での提案。	～10/31
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。